



2025年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2025年2月6日

上場会社名 株式会社シーボン 上場取引所 東
コード番号 4926 URL <https://www.cbon.co.jp/company/>
代表者 (役職名) 代表取締役社長 執行役員 (氏名) 崎山 一弘
問合せ先責任者 (役職名) 執行役員 管理本部責任者 (氏名) 松本 裕右 TEL 03-3404-7501
配当支払開始予定日 —
決算補足説明資料作成の有無：無
決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

1. 2025年3月期第3四半期の連結業績（2024年4月1日～2024年12月31日）

(1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期第3四半期	6,536	1.6	38	△42.0	40	△41.1	△25	—
2024年3月期第3四半期	6,433	1.1	65	—	68	—	13	—

(注) 包括利益 2025年3月期第3四半期 △37百万円 (—%) 2024年3月期第3四半期 3百万円 (—%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2025年3月期第3四半期	△6.06	—
2024年3月期第3四半期	3.16	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2025年3月期第3四半期	8,769	5,537	63.1
2024年3月期	8,808	5,659	64.2

(参考) 自己資本 2025年3月期第3四半期 5,534百万円 2024年3月期 5,656百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2024年3月期	—	5.00	—	10.00	15.00
2025年3月期	—	10.00	—	—	—
2025年3月期（予想）	—	—	—	10.00	20.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

3. 2025年3月期の連結業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	8,700	2.3	12	△57.9	13	△69.0	△72	—	△16.95

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：有
業績予想の修正については、本日（2025年2月6日）公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における連結範囲の重要な変更：有
新規 1社 (社名) 株式会社天然酵母研究所、除外 1社 (社名)
株式会社天然酵母研究所は2024年5月17日に設立し、第1四半期連結会計期間より連結の範囲に含めておりま
す。

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2025年3月期3Q	4,281,200株	2024年3月期	4,281,200株
② 期末自己株式数	2025年3月期3Q	689株	2024年3月期	689株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2025年3月期3Q	4,280,511株	2024年3月期3Q	4,280,511株

※ 添付される四半期連結財務諸表に対する公認会計士又は監査法人によるレビュー：無

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績の見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、P. 2「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	1
(1) 経営成績に関する説明	1
(2) 財政状態に関する説明	2
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	2
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	3
(1) 四半期連結貸借対照表	3
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	4
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	4
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	5
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	6
(セグメント情報等の注記)	6
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	6
(継続企業の前提に関する注記)	6
(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)	6
(会計方針の変更に関する注記)	6

1. 当四半期決算に関する定性的情報

（1）経営成績に関する説明

当第3四半期連結会計期間における日本国内の経済環境は、企業の設備投資の増加等も見込まれ、緩やかな回復基調となりました。しかしながら、人件費やエネルギー価格の上昇等により、企業が製品へコスト転嫁することが予測されるなど、依然として先行きは不透明な状況が続いております。

こうした経営環境の中、当社グループは、2024年3月期からスタートした中期経営計画（2024年3月期から2026年3月期）の2年目として、「製品価値向上」「サロン価値向上」「新しい価値の創造」という3つの重点課題を掲げ、再成長を目指しております。

中期経営計画の策定と合わせ、「素肌と対話する」共奏美容^{*1}をコンセプトに「60th Anniversary プロジェクト」を始動し、段階的に製品のリニューアル、サロンの改装、サロンで接客するフェイシャリストの知識・技術・サービスの向上を進めております。2026年の創業60周年に向けて、サステナブルな社会に貢献する企業を目指してまいります。

当該ブランディングプロジェクトに伴い、2023年11月に新たなPhilosophyと新コーポレートロゴを、2024年6月には新たなブランドコンセプト及びビジュアルを発表いたしました。この新たなブランドコンセプトに則り、ブランドサイトやコーポレートサイトを刷新したほか、サロンの内装も順次リニューアルを行っております。加えて、ロングセラー製品の高機能クレンジングクリーム“トリートメント マセ”をはじめとした、当社の人気クレンジング・洗顔料の8品種を7月1日にリニューアル発売いたしました。合わせて、9月1日よりサロンで働くフェイシャリストの制服も新たにリニューアルいたしました。この新しい制服は、従業員の声を反映し、既存のワンピーススタイルに加え、パンツスタイルのセパレートタイプも採用しており、さまざまな世代、ライフステージに対応できるデザイン・スタイルで、社員一人ひとりが自分らしく輝けることを目指しております。

また、2022年2月に「六本木本社ビル「シーボン クイーンビル」建替えに関するお知らせ」のリリースにて開示済みの通り、建替え工事を行っておりました六本木本社ビルが、2024年8月に竣工し、2024年9月に本社機能及び研修センター機能を移転いたしました。引き続きさらなる本社機能の効率化を進め収益力強化に取り組むとともに、シーボンブランドの認知度向上、ブランド力強化に取り組んでまいります。加えて、スタッフへの研修や店長会議の頻度を増加させる等、スタッフ教育を強化し、顧客満足度向上や社員のエンゲージメント上昇を図っております。

直営店舗に関しては、当連結会計期間も昨年度に引き続き、新規顧客の拡大及びロイヤルカスタマーの醸成に重点を置き、施策を実施してまいりました。新規顧客の集客方法として主に、肌チェック等のイベントでの集客、Instagram等のWEB広告を含む広告媒体からの集客、既存会員からのご家族やお友達等の紹介があり、これら3種すべてで前年を上回る実績となっております。肌チェック等のイベントでの集客活動はブランディングプロジェクトに伴う集客ブースやユニフォームを刷新したこと、また、予約から来店に至るまでの来店効率を改善すべく施策を行ったことにより、来店数は前年同期比102.1%となりました。Instagram等の広告媒体からの集客はブランディングプロジェクトでのビジュアルの刷新が奏功し前年同期比118.9%、顧客からの紹介による新規来店数は前年同期比108.0%となりました。ロイヤルカスタマーの醸成に関しては、12月5日に当期2度目となるロイヤルカスタマー限定の工場見学・体験ツアーを開催したほか、10月にはロイヤルカスタマー限定製品であるエイジングケア用クリーム「C' BON BEYOND THE CREAM」^{*2}を完全受注生産にて発売したことにより、既存顧客の単価は7.3%増となりました。しかしながら、既存顧客の継続数^{*3}は、採用難等により店舗スタッフの採用数が計画を下回っており、直営店舗での接客数が横ばい傾向にあるため、96.2%となり、継続顧客への売上高は5,642百万円となりました。

この結果、直営店舗における売上高は6,130,759千円（前年同期比3.9%増）となりました。

1月24日には、8月に竣工した六本木本社ビルの1階にシーボンコンセプトショップを、2階にはフェイシャリストサロン六本木本店を移転オープンいたしました。1月23日にはメディア関係者やインフルエンサー等をコンセプトショップにご招待しメディア発表会を開催しております。引き続き六本木本社ビルでは、当社及び当社ブランドが提供できる価値を発信する場として、認知度拡大に向け取り組んでまいります。

新規事業のヘアトリートメントサロン「イマトリ」では、7月までに3店舗を開設しており、加えて全店にナノバブル発生システムを導入する等、設備投資を進めております。認知度拡大を主眼に置いてキャンペーンを実施していたこと等もあり、来店促進は進んだものの、売上高は当初の見込みを割り込む結果となっており、設備投資に対する回収計画に遅れが生じ、利益面でも下押しの要因となっております。

子会社ジャフマックではお客様に安心してお召し上がりいただけるよう万全の体制をとり、新製品を順次発売しておりましたが、前期以前の売上高への回復には至っておらず、当初想定と実績に差異が発生しております。

この結果、当第3四半期連結会計期間における連結売上高は6,536,455千円(前年同期比1.6%増)となりました。直営店舗は新規顧客の増加や、新製品での単価向上により、売上高は増加したものの、直営店舗以外のチャネルでの当初予想と実績値との乖離を埋めるには至らず、前年同期比微増での着地となりました。利益面におきましては、イマトリ2店舗の出店や広告宣伝、ブランディングプロジェクト関連の店舗改装や製品リニューアル及びジャフマックの再成長等への投資を行ったこともあり、販売費及び一般管理費が前年同期比微増で着地し、営業利益は38,048千円(前年同期比42.0%減)となり、経常利益は40,368千円(前年同期比41.1%減)、親会社株主に帰属する四半期純損失は25,946千円(前年同期は親会社株主に帰属する四半期純利益13,508千円)となりました。

※1 共奏美容

: 揺らぎを安定、そして調和させてビューティーリズムを整えることがシーボンの考える「共奏美容」です。3つのFACIALIST®(化粧品・人・サロン)がお客様とのコミュニケーションから、共に美しい作品を奏でるように、健やかで美しい肌を育てていくという想いが込められています。

※2 C' BON BEYOND THE CREAM

: 次世代エイジングケアとして注目のNMNを配合し、様々なコンプレックスの根源にアプローチするエイジングケア用クリーム。

容量 50g 価格 88,000円(税込み)

※3 継続数

: 1ヵ月に1回以上来店のあるお客様ののべ人数

(2) 財政状態に関する説明

①資産、負債及び純資産の状況

(流動資産)

当第3四半期連結会計期間末の流動資産は4,768,318千円となり、前連結会計年度末に比べ745,473千円減少いたしました。その主な要因は、現金及び預金の減少(前連結会計年度末比919,461千円減)、商品及び製品の減少(前連結会計年度末比40,817千円減)があった一方で、受取手形及び売掛金の増加(前連結会計年度末比105,995千円増)、その他流動資産の増加(前連結会計年度末比87,526千円増)によるものであります。

(固定資産)

当第3四半期連結会計期間末の固定資産は4,000,930千円となり、前連結会計年度末に比べ706,015千円増加いたしました。その主な要因は、建物及び構築物の増加(前連結会計年度末比1,380,268千円増)があった一方で、その他有形固定資産の減少(前連結会計年度末比595,381千円減)によるものであります。

(流動負債)

当第3四半期連結会計期間末の流動負債は2,800,852千円となり、前連結会計年度末に比べ107,974千円増加いたしました。その主な要因は、その他流動負債の増加(前連結会計年度末比119,693千円増)があった一方で、未払法人税等の減少(前連結会計年度末比47,042千円減)によるものであります。

(固定負債)

当第3四半期連結会計期間末の固定負債は430,635千円となり、前連結会計年度末に比べ25,335千円減少いたしました。その主な要因は、その他固定負債の減少(前連結会計年度末比16,877千円減)、資産除去債務の減少(前連結会計年度末比8,457千円減)によるものであります。

(純資産)

当第3四半期連結会計期間末の純資産は5,537,761千円となり、前連結会計年度末に比べ122,096千円減少いたしました。その主な要因は、利益剰余金の減少(前連結会計年度末比111,556千円減)によるものであります。

この結果、自己資本比率は63.1%(前連結会計年度末は64.2%)となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績予想につきましては、最近の業績動向を踏まえ、2024年5月9日付「2024年3月期 決算短信〔日本基準〕(連結)」にて発表いたしました通期の連結業績予想を修正いたしました。

詳細につきましては、本日(2025年2月6日)公表いたしました「業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2024年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	3,633,673	2,714,212
受取手形及び売掛金	842,074	948,070
商品及び製品	425,734	384,917
仕掛品	56,818	60,211
原材料及び貯蔵品	426,163	444,111
その他	129,444	216,970
貸倒引当金	△118	△175
流動資産合計	5,513,791	4,768,318
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物(純額)	726,356	2,106,624
土地	244,827	244,827
その他(純額)	976,755	381,373
有形固定資産合計	1,947,938	2,732,825
無形固定資産		
投資その他の資産	49,808	38,996
その他	1,320,168	1,252,109
貸倒引当金	△23,000	△23,000
投資その他の資産合計	1,297,168	1,229,109
固定資産合計	3,294,915	4,000,930
資産合計	8,808,706	8,769,249
負債の部		
流動負債		
買掛金	89,114	132,419
1年内返済予定の長期借入金	2,900	—
未払法人税等	83,880	36,837
契約負債	1,714,498	1,699,634
資産除去債務	1,802	11,584
その他	800,682	920,375
流動負債合計	2,692,878	2,800,852
固定負債		
資産除去債務	317,678	309,220
その他	138,292	121,414
固定負債合計	455,971	430,635
負債合計	3,148,849	3,231,488
純資産の部		
株主資本		
資本金	483,930	483,930
資本剰余金	367,830	367,830
利益剰余金	4,636,048	4,524,491
自己株式	△1,501	△1,501
株主資本合計	5,486,308	5,374,751
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	163,400	151,100
為替換算調整勘定	7,277	8,463
その他の包括利益累計額合計	170,678	159,564
新株予約権	2,871	3,445
純資産合計	5,659,857	5,537,761
負債純資産合計	8,808,706	8,769,249

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書
(四半期連結損益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
売上高	6,433,632	6,536,455
売上原価	1,622,476	1,615,398
売上総利益	4,811,155	4,921,057
販売費及び一般管理費	4,745,551	4,883,009
営業利益	65,604	38,048
営業外収益		
受取利息	60	285
受取配当金	5,457	6,577
雇用調整助成金	1,268	—
その他	3,171	3,814
営業外収益合計	9,958	10,677
営業外費用		
支払利息	153	18
社宅等解約損	143	—
為替差損	582	174
支払手数料	3,780	3,753
支払補償費	—	3,921
その他	2,326	489
営業外費用合計	6,986	8,357
経常利益	68,576	40,368
特別利益		
固定資産売却益	—	2,475
特別利益合計	—	2,475
特別損失		
固定資産除却損	9,677	8,635
解体撤去費用	8,298	—
その他	—	1,800
特別損失合計	17,975	10,435
税金等調整前四半期純利益	50,600	32,408
法人税、住民税及び事業税	37,504	59,648
法人税等調整額	△412	△1,293
法人税等合計	37,092	58,354
四半期純利益又は四半期純損失(△)	13,508	△25,946
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失(△)	13,508	△25,946

(四半期連結包括利益計算書)
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失 (△)	13,508	△25,946
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△13,004	△12,299
為替換算調整勘定	3,346	1,185
その他の包括利益合計	△9,657	△11,113
四半期包括利益	3,850	△37,060
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	3,850	△37,060

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

当社グループは、化粧品及び医薬部外品の製造販売事業の単一セグメントであるため、記載を省略しております。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書に関する注記)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費（無形固定資産に係る償却費を含む。）は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年12月31日)
減価償却費	91,577千円	128,122千円

(会計方針の変更に関する注記)

(「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」等の適用)

「法人税、住民税及び事業税等に関する会計基準」（企業会計基準第27号 2022年10月28日。以下「2022年改正会計基準」という。）等を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。

法人税等の計上区分（その他の包括利益に対する課税）に関する改正については、2022年改正会計基準第20-3項ただし書きに定める経過的な取扱い及び「税効果会計に係る会計基準の適用指針」（企業会計基準適用指針第28号 2022年10月28日。以下「2022年改正適用指針」という。）第65-2項(2)ただし書きに定める経過的な取扱いに従っております。なお、当該会計方針の変更による四半期連結財務諸表への影響はありません。

また、連結会社間における子会社株式等の売却に伴い生じた売却損益を税務上繰り延べる場合の連結財務諸表における取扱いの見直しに関連する改正については、2022年改正適用指針を第1四半期連結会計期間の期首から適用しております。当該会計方針の変更は、遡及適用され、前年四半期及び前連結会計年度については遡及適用後の四半期連結財務諸表及び連結財務諸表となっております。なお、当該会計方針の変更による前年四半期の四半期連結財務諸表及び前連結会計年度の連結財務諸表への影響はありません。